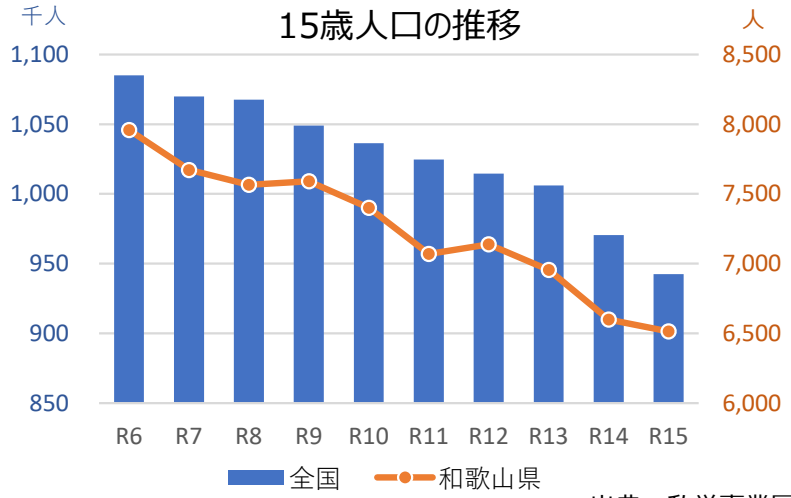
これからの公立高校の在り方について

和歌山県資料

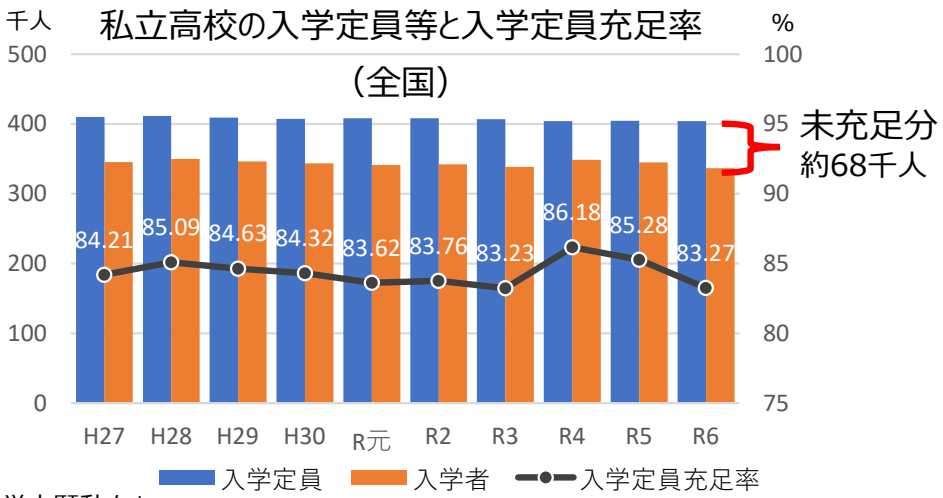
資料１

- 少子化や高校授業料無償化などにより、高校教育を取り巻く環境は大きく変化

少子化により15歳人口は年々減少



高校授業料無償化により、私立高校の入学定員充足率が向上する可能性



出典：私学事業団「令和6年度私立高校入学志願動向」

- 多くの生徒にとって私立高校への進学がより大きな選択肢となる中、公立高校も選ばれる学校として、魅力化、特色化に向けた以下の改革が必要

  ①専門高校の機能強化：私立高校を含めた普通科志向の加速化が懸念され、専門高校の志望者が減少すると予測される中、機能強化に向けた取組の必要性

  ②地域に応じた公立高校の在り方：人口減少の中であっても、通学圏内に１つ以上の学校は残しつつ、教育環境維持の観点から小規模化を避ける取組の必要性

  ③普通科改革：希望する生徒が多い普通科について、探究・文理横断・実践的な学びなどの改革に向けた取組の必要性

- この大きな潮流は地域の今後の在り方にも大きく影響することから、教育行政の範囲にとどまらず、県（府）も一体となった取組が必要

本県の取組

①専門高校の機能強化

農業教育一貫プロジェクト

５年間の継続した農業教育

農業系高校（３年）　農林大学校（２年）

- 果樹（みかん・うめ・もも・かき）の学習を軸にスマート農業や６次産業化についても学習
- ５年間の継続カリキュラムの構築
- 進学後も継続できるプロジェクト学習を設定
- 県農業試験場等と連携した講義や実習の実施

教育内容の特色

果樹

スマート農業

６次産業化

蓄電池人材の育成

- 本県の成長産業の候補の一つである「蓄電池」産業の人材を育成するため、産学連携による「バッテリー教育プログラム」を県立高校５校で実施
- 教材のアレンジやオリジナルの実習の考案など、それぞれ創意工夫を凝らした授業を展開

電池製造の模擬体験を行う様子（紀北工業高等学校）

これからの公立高校の在り方について

和歌山県資料

②地域に応じた公立高校の在り方

宇宙探究コースの全国募集

- 和歌山県串本町において、スペースワン㈱がロケット発射場「スペースポート紀伊」を建設し、今後、継続した打上げを実施
- ロケット打ち上げをきっかけとして、2024年４月より、県立串本古座高等学校に「宇宙探究コース」を新設 【初年度７名（**うち県外４名**）、今年度６名（**うち県外５名**）入学】
- 「宇宙」に関する科目を３年間で７～11単位学習

事例発表（宇宙シンポジウム）

③普通科改革

探究的な学びを充実する新たな学科への改編

- 【橋本高校】
  - ➢令和７年度入学生から全クラスを「探究科」に改編
  - ➢探究学習による課題発見・解決力等を養うことを通じて、自己有用感を持ち社会貢献できる生徒を育成
- 【新宮高校】
  - ➢令和７年度入学生から「普通科」と「学彩探究科」に改編
  - ➢現代社会が抱える複雑な諸課題に対応した分野横断的な学びを進め、地域社会や国内外でリーダー・イノベーターとして活躍できる生徒を育成

必要な知識・スキルの取得

フィールドワーク

成果発表